

鳥獣害対策情報

田植えが終わり水田に植わった直後の稲の新葉をシカが食べ稲が実らないことがあります。稲刈り時期にはイノシシが稲を食べたり、踏み倒したりします。鳥獣害対策をしっかりと行わないと減収につながります。鳥獣害対策として、防護柵の正しい張り方と鳥獣害を寄せ付けない集落環境づくりについてご紹介します。

○防護柵の張り方

<電気柵>

動物にショックを与え追い払う方法です。イノシシの鼻はとても敏感です。鼻に電線が触れるように電線の高さは地上から20cmと40cmの位置に張りましょう。また、イノシシは最初に縦棒を押す習性があります。ショックを与えるためにガイシは外側（侵入側）につけましょう。

<ワイヤーメッシュ柵・金網フェンス>

柵の外側は刈り払い、林縁部からは2m以上離して張りましょう。柵の高さは、イノシシなら1.2m以上、シカなら1.8m以上の高さが必要です。網目はイノシシ、シカを問わず10cm以下にします。ワイヤーメッシュ柵は、縦線が外側（侵入側）に横線が内側（圃場側）になるように設置しましょう。また、上部30cmを外側に20～30℃折り曲げると（忍び返し）、イノシシからは柵が迫ってくるように見え効果的です。金網フェンスでは、下からの侵入を防ぐため地際の網を30cm程度折り曲げると効果的です。

<ネット柵>

一般にシカ対策として設置するものです。網目はシカが口を突っ込めないように10cm以下にしましょう。獣は飛び越えるより下に潜り込もうとします。潜り込みによる侵入を防止するため、地面との隙間がないように張りましょう。また、足下に障害物があると嫌がるため、ネットを斜めに垂らして張ると柵に近づきにくくなり効果的です。

○集落環境づくり

鳥獣害対策では、集落ぐるみで取り組むことが大事です。畑の収穫物の残りや収穫しない果樹、水稻収穫後のヒコバエなどがエサとなるので、なくすことが大事です。さらに、耕作放棄地などの雑草に覆われた場所が隠れ家となります。獣が住みにくく人が住みやすい環境を作っていくため、みんなで知恵を出し合い対策に取り組みましょう。

集落営農育成研修会

上記で紹介した以外にも獣害対策のポイントはまだまだあります。防護柵を張る前、張った後の集落点検について8月下旬頃に研修会を行います。詳細は中山間協定集落と集落営農組織の方にはまたお知らせしますので、ぜひ研修会で鳥獣害対策について学んでいただければと思います。

作成・発行 大分県西部振興局農山村振興部 集落・水田班

監修 大分県集落営農推進西部支部

TEL : 0973-22-2585 FAX : 0973-23-2219

集落営農かわら版

平成26年6月15日 VOL.22
大分県西部振興局農山村振興部
大分県集落営農推進西部支部

部長挨拶

農山村振興部長の藤本です。今年度も引き続きよろしくお願いいたします。

現在、地域の農業・農村は、高齢化や耕作放棄地の増加、担い手の減少、鳥獣被害の増加など様々な課題を抱えています。こうした課題に対応するため、集落営農組織を水田農業の重要な担い手と位置づけ、法人化や経営強化など支援を積極的に進めています。

また、農地の集積促進、生産調整の見直しなど国の政策も大きく変わり、TPP交渉の行方についても注視が必要な中、こうした変革にもしっかりと対応していく必要があります。

今後も皆さんと力を合わせ、農家所得の向上や活力ある集落づくり、農地の保全に頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。



新しい集落営農組織のご紹介

○内後原集落組合（平成25年4月1日設立 佐藤初男 組合長）

日田市前津江町で第1号となる集落営農組織が設立されました。

既に、自分たちでオペレーターを決めて作業受託や、堆肥の共同購入、共同防除などの活動を行っていました。今回、正式に集落営農組織として活動を開始することになりました。早速、今年2月の日田集落営農組織連絡会に出席し、他の組織と有意義な意見交換ができました。

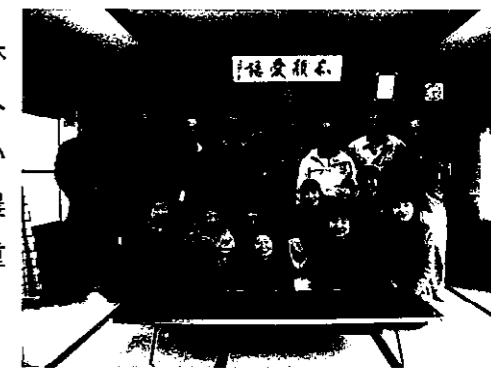
○あさひ営農組合君迫支部（平成26年2月26日設立）

日田市朝日地区では、平成21年度から基盤整備事業に取り組んでおり、整備後の農地を守る集落営農組織としてあさひ営農組合が設立され、朝日支部、小迫支部に続いて27名で君迫支部が設立されました。

各支部と協力しながらWCS用稲の作付を計画しており、今後の発展が期待されます。

○若林営農組合（平成26年3月9日設立 川津今朝喜 組合長）

日田市上津江町で4番目となる集落営農組織が設立されました。若林集落の農地をこれからどう守っていくかアンケート調査を行い、将来への不安を抱く人が多く集落営農組織の必要性を感じているとの結果から、役員を中心に設立に向けて協議を重ねてきました。今後、集落の農地を守っていけるように効率的な営農を目指し、視察研修など勉強を重ね、自分達にあった組織運営を行っていきます。



○笑顔満天！草ノ入江営農組合（平成26年3月26日設立 石井寿満 組合長）

玖珠町四日市草ノ入江集落で集落営農組織が設立されました。

主な活動は大豆、牧草等の生産、水稲防除作業の受託です。集落の農地を荒らさず、将来若い人が帰ってきてくれるような地域を作ることを目標に活動を行っています。

○小川原農地保全組合

（平成26年5月12日設立 古閑隆司 組合長）

日田市上津江町で5番目となる集落営農組織が設立されました。

既に自分たちでオペレーターを決めて田植作業の受託をしていましたが、正式な規約等を定めて活動しようと、今年3月に関係機関を交えた話し合いを行い、その後集落でも作業料金や役割分担について話し合いを重ね組織設立に至りました。中山間の交付金で購入した田植機を活用し、田植作業の受託を中心に活動していきます。



農作業安全～農業機械による事故を防ごう！～

I 多い、トラクター事故！

毎年、全国では約400件の農作業死亡事故が起きています。大分県では年間におよそ9.8件（過去12年間の平均）の死亡事故が起きています。農作業死亡事故の発生率は建設業や交通事故と違い、昭和46年の件数から減っていません。農作業事故はちょっとした不注意や油断で誰にでも起こりうるものです。決して他人事ではありません！

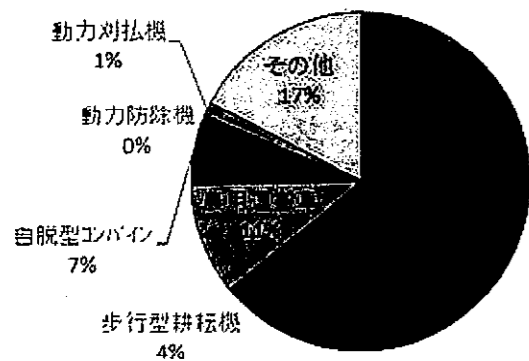
特にトラクターによる事故が多く、全国的には30%がトラクターによる事故となっていますが、県内では事故件数が60%を超える割合となっています。

II 農作業事故の7割が高齢者！

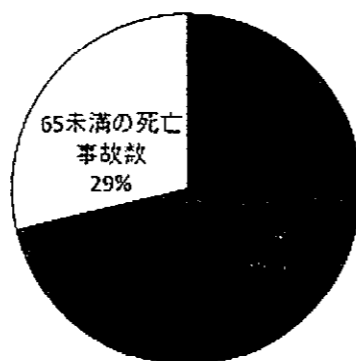
農業従事者の高齢化が進む中で、農作業事故のうち約7割が65歳以上の高齢者です。さらに耕うん機事故では8割が高齢者で占めています。高齢者は加齢に伴い体力が低下していきます。若い頃の感覚で作業を進めると体の負担が大きくなり、事故を起こしやすくなります。無理をせず、昔より慎重に作業しましょう！

また、農作業事故の発生は11時～12時が最も多く、次いで9～10時、14～15時で多くなっています。疲れを感じたら無理をせず早めに休憩をとるようにしましょう！

大分県における農業機械別の死亡事故割合（H12～H24：12年間）



大分県の農作業死亡事故件数 年間約9.6件（12年間平均）



III 今日からやれる農作業事故を防ぐためのポイント

このような現状を踏まえ、事故を減らしていくために、事故が多発する春作業の3月～6月を農作業安全対策の重点期間として、交通安全運動と同じように全国で「春の農作業安全確認運動」を行っています。

平成26年の安全確認運動は、地域による農作業安全の取組を呼びかけることで、安全意識を高める運動をしてきました。今からでもやれることをひとつでも取り組んで事故の防止に努めてください。

●危険がどこにあるか考えよう！

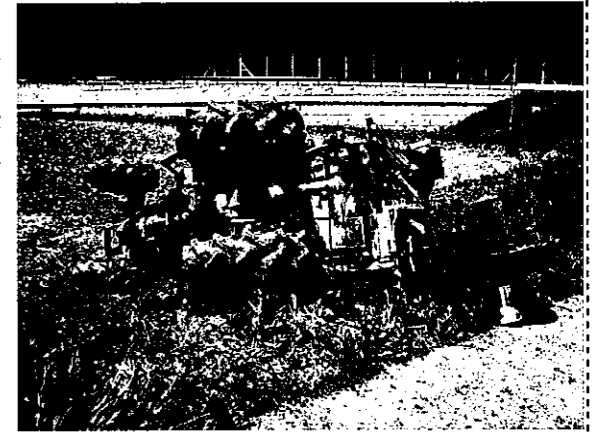
段差のある所や狭い通路、水路など普段の農作業の中でどこに危険があるか考えてみましょう。

●無理のない作業計画を立てよう！

自分自身の体力に応じた無理のない作業計画を立てましょう。また、適度の休みをとり、無理な作業はやめましょう。作業する場所や時間を家族に知らせておくことも大切です。

●事前の準備で事故を防ぐ！

作業中の農業機械や農機具の故障は事故に繋がるだけでなく作業が遅れるため焦りを生みます。機械や農機具は作業前の点検整備をしましょう。また、トラクターの転倒防止装置などの安全対策で事故を未然に防ぎましょう。



農業機械事故の様子

●作業中は周囲の安全確認を！

作業中は常に周囲の安全を確認し、危険箇所や人に注意しましょう。慣れた機械作業でも注意を怠らず作業を進めましょう。

●機械点検は必ずエンジン停止！

機械を点検する場合には、必ずエンジンを切ってから行いましょう。また、ロータリー部分などへ巻き込まれないよう、ズボンの裾や上着の裾はきちんと締めるなど服装を整えましょう。

●ケータイ電話を携帯しよう！

1人作業中の事故で、携帯電話を持っていたために救命につながった事例が多数あります。例え自宅近くの作業でも（敷地内の納屋でも）、家を出るときは携帯電話を必ず持ち歩くようにしましょう。



IV 近年増えている農作業事故

- ① 転倒、転落してトラクターなどの下敷きとなったり、立木等に挟まれて死亡する事故
- ② コンバインの動力部へ巻き込まれる事故
- ③ 草刈り作業での事故

農業機械は季節によって年に数日もしくは数回しか使わず、「機械作業は毎年1年生」といわれるものもあります。くどいようですが説明書の見直し、始動前の安全確認等を行ってください。

